

広報ほんべつ

本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

2016

August
No.1054

8月

表紙 第74回本高祭
仮装パフォーマンス



Pick up

- 特集 認知症「もの忘れ散歩のできるまち ほんべつ」を目指して
- 防災総合訓練を実施します
- 体力増進センターをご利用ください
- 移住サポートセンターを開設しました

お札ばかり使って支払ってる？

今までお札の小銭を少なくするよう頭の中で考えてお札と小銭を使って支払いしていたのに、最近は大きい金額のお札ばかり出している。簡単な計算ができなくなっちゃったのかな？

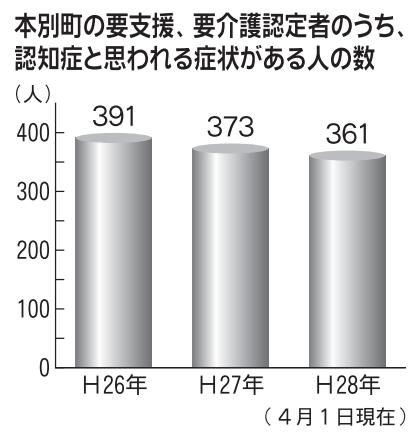
いつも何かを探してます。

うちのおじいちゃん、前よりもしまい忘れ、置き忘れが増えたみたい。いつも家中で探し物をしている。

本別町の認知症の今

一昔前には「痴呆」などと言われていた認知症。認知症は、年を取れば取るほどなりやすい病気で、現在65歳以上の4人に1人が認知症およびその予備軍とも言われています（厚生労働省資料）。本別町の要支援、要介護認定者のうち、認知症と思われる症状がある人は、370人前後で、平成26年以降横ばいの状態です。本別町の人口推計では、およそ10年後には、団塊の世代といわれる皆さんのが後期高齢者となり、今後も認知症だけでなく、さまざまな病気で介護が必要な人が増えていくことが予想されます。

本別で暮らす誰もが住み慣れたこの町で安心して暮らしていくためにも、認知症患者とその家族を支える、継続的かつ、新たな支援が必要となってきています。



会話が成立しない。

さつき聞いたこと、話したことがわからないみたい。質問と答えも、時々ちんぶんかんぶんなんだか最近、会話が成立しないことが多いな。

花か草か
わからぬ

うちのおばあちゃん、庭の草取り一生懸命やつてくれるけど：お花も取つてしまつて困るの。

なんだかいつもの「もの忘れ」とちがう気がする

いつも何かを探してます。

うちのおじいちゃん、前よりもしまい忘れ、置き忘れが増えたみたい。いつも家中で探し物をしている。

奥さん忘れて 家に帰った

夫婦で買い物に出掛けたのに、奥さんを忘れておじいちゃん1人で車に乗って家に帰ってしまった。

薬が残つてる。

昔は部屋もきれいにしていたのに、最近は物が出しつばなし。冷蔵庫の中も、古い食材が残つてゐるみたい。片付け、できなくなつちやつた？

物が片付けられない

昔は部屋もきれいにしていたのに、最近は物が出しつばなし。冷蔵庫の中も、古い食材が残つてゐるみたい。片付け、できなくなつちやつた？

怒りっぽくなつた？

穏やかな性格だったあの人、最近、怒ることが増えてきた？

特集 認知症
「もの忘れ散歩のできるまち ほんべつ」
を目指して

「おじいちゃんの物忘れが多くなった…
このままでいいのだろうか」

皆さんの周りに、このようなエピソードはありませんか？実はこの話し、認知症発見のきっかけとしてよく聞く話題の一例です。

一見、笑い話のようにも見える出来事が、実は認知症の初期症状の可能性があります。

本別町では、認知症を早期発見し、早期治療や支援につなげていくためのガイドブックとして「もの忘れ散歩のみちしるべ～本別町認知症ケアパス～」を平成28年3月に作成しました。

広報ほんべつ8月号では、町民の皆さんはもちろん、夏休みやお盆の休暇などで本別町へ帰省した皆さんに、ケアパスとともに読んでいただきたい、本別町の認知症支援をお伝えします。





とかち東北部

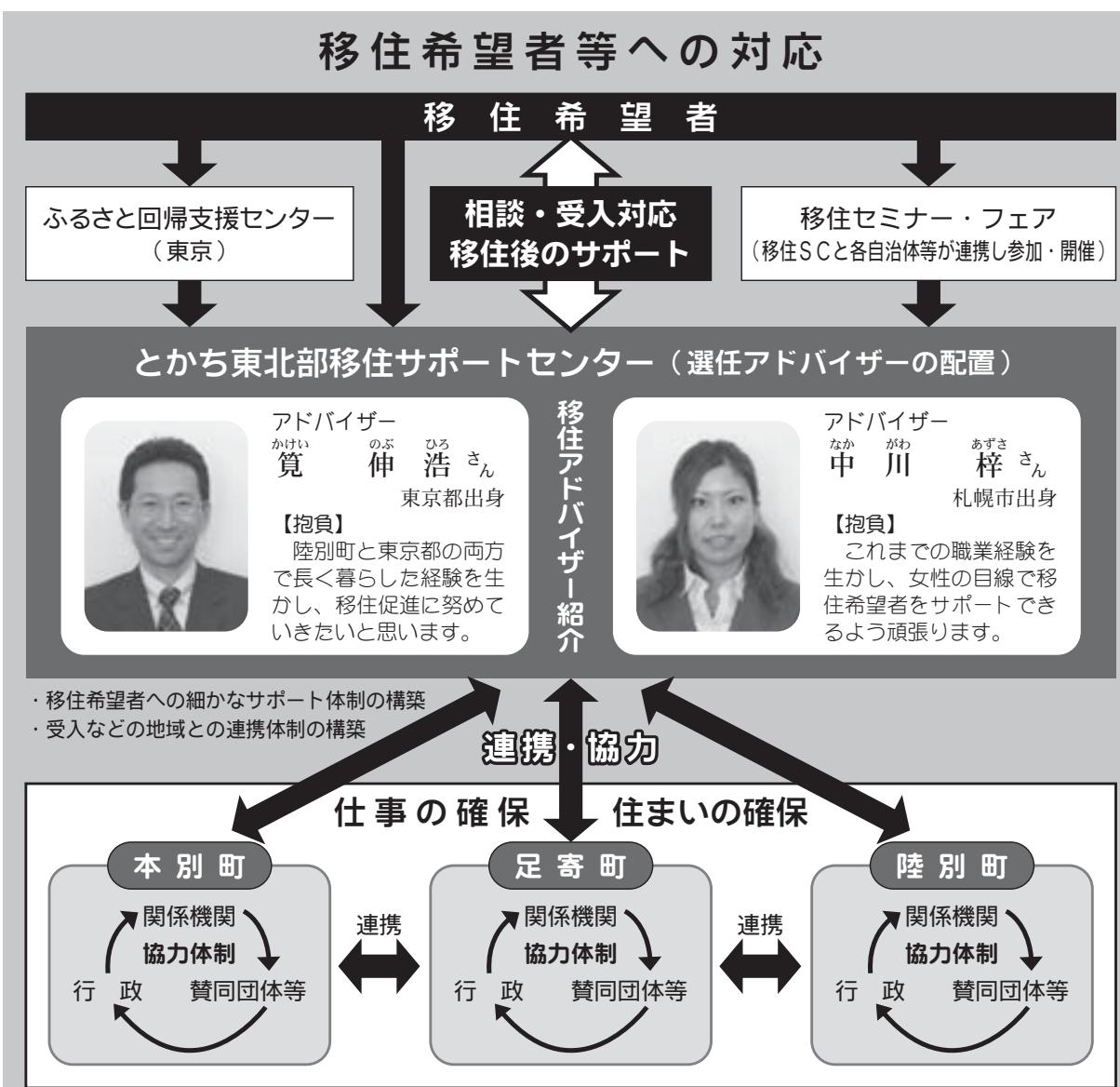
移住サポートセンターを開設しました

UターンやIターンなどの相談、しごとや住まいに関する情報をお寄せください

■設立までの経過

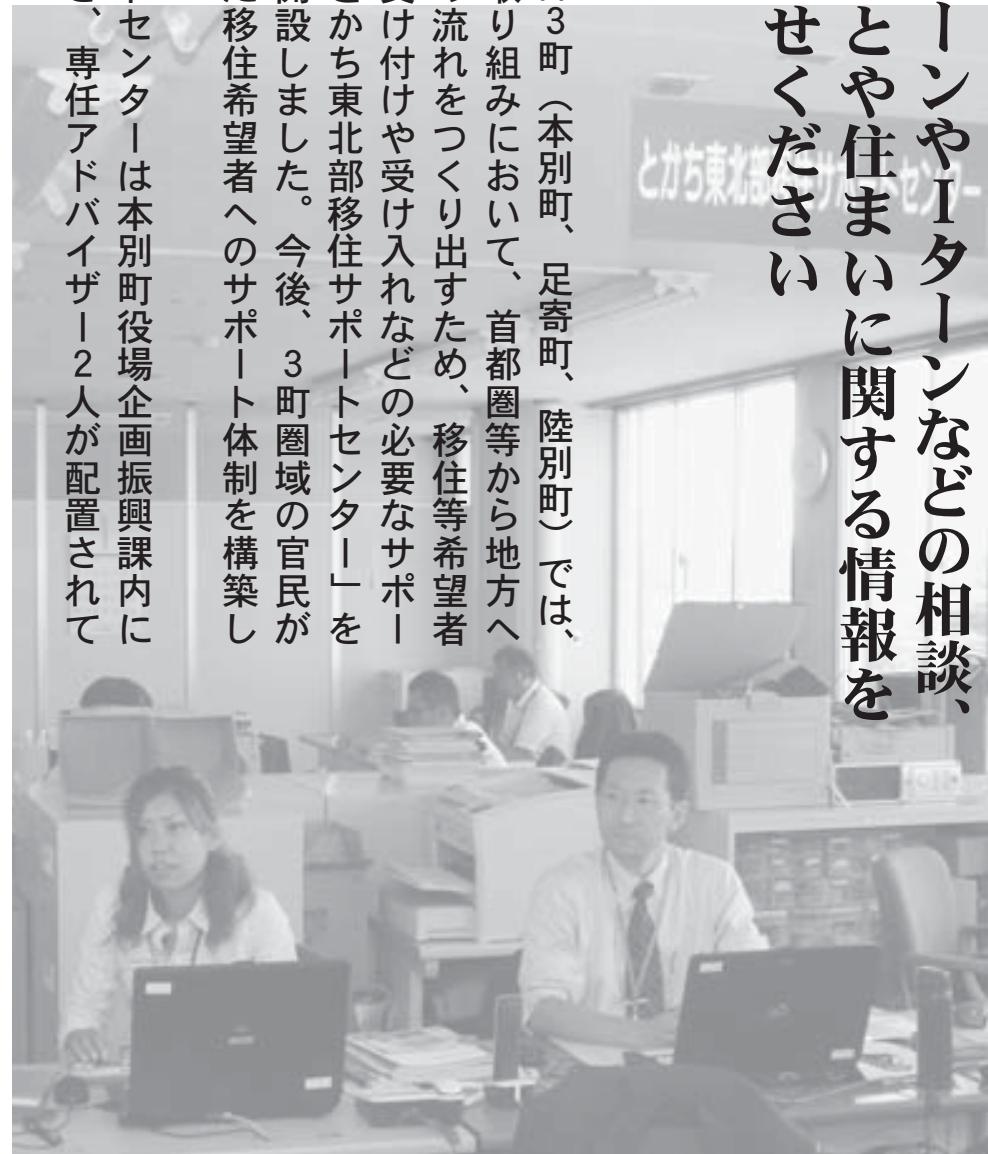
平成26年11月、まち・ひと・しごと創生法の施行により、各自治体では、人口を維持していくため、今後の目標すべき将来の方向を提示する「人口ビジョン」や、今後5か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「地方版総合戦略」を策定しました。東北部3町では、地方版総合戦略を積極的に推進していくため、地域活性化に努め、安心して暮らしあげられる地域とするため、3町での議論を重ねてきました。

平成28年3月24日には、「観光、移住定住、ふるさと応援」にかかる取り組みにおいて、連携・協力していくことを3町間で確認し、連携地域の形成に関して協定を締結、この度、関係機関等のご協力のもと「とかち東北部移住サポートセンター」の開設に至りました。



とかち東北部移住サポートセンター

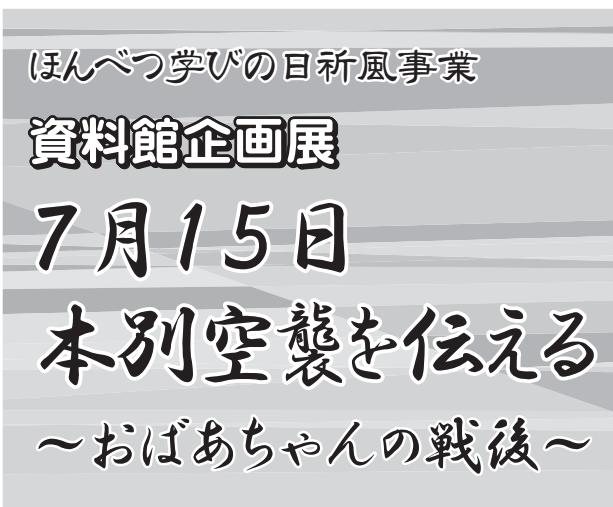
住所：〒089-3392 本別町北2丁目4番地1 本別町役場企画振興課内
電話：0156-33-0001 FAX：0156-22-3237
メール：saposen@town.honbetsu.hokkaido.jp



■設立総会

6月29日に3町の町長や関係者が集まり、とかち東北部移住サポートセンターの設立総会が本別町役場において開催されました。役員としてサポートセンター会長に高橋正夫本別町長、副会長に野尻秀隆陸別町長、監事に安久津勝彦足寄町長が選任され、3町が連携・協力し、移住希望者等に対する必要な情報の提供や支援を行うとともに、首都圏等へのプロモーションを一体的に行い、3町全体の振興と人口減少対策の推進を確認しました。

■設立総会



本別空襲

7月1日から8月31日まで歴史民俗資料館で、企画展「7月15日 本別空襲を伝える」が開催されています。17回目を迎える今年のテーマは「女性の目から見た戦争」で、家族を守るために闘った女性たちの生きざまを新たな資料を加えて展示しています。



被弾したタンス
空襲時は、現在の北1丁目の民家にありました。持ち主だったおばあちゃんが亡くなるまで大切に使つてきましたが、今年資料館に寄贈されました。



資料と場所を結びつける空襲マップ

空襲被害が分かる写真パネル

女性の「銃後の守り」を伝える資料

見る

知る



追悼の言葉を送る政木遺族会会长

誓う

本別町戦没者・戦災死没者追悼式

戦争による犠牲者の方々の冥福を祈り、恒久平和を願う「本別町戦没者・戦災死没者追悼式」が7月15日午前10時から、遺族や来賓など約60人が参列し、向陽町ふれあい交流館でしめやかに執り行われました。

本別町では、日清・日露・第2次世界大戦の戦役で299人が戦死。終戦直前の昭和20年7月15日には、米軍機による本別空襲で40人が犠牲になり、十勝で最大の被災地となりました。追悼式では、全町民に黙とうを呼び掛けたサイレンが吹鳴され、参列者全員で黙とうを捧げた後、高橋正夫町長が「戦後70余年の長い歳月が過ぎ、時の流れは悲惨な戦争の記憶を風化させ、平和の尊しさを忘れさせようとしています。国際社会では現在もなお武力による紛争が続いていることを考慮すると、今こそ真剣に恒久平和の実現に努めるとき。あの悲惨な歴史を二度と繰り返さぬよう、町民とともに決意を新たにすることが今に生きる私たちに課せられた責務であり、最上での勤めです」と式辞を述べました。

また、方川一郎町議会議長（代読）、政木高治本別町遺族会会长らが追悼の言葉を送りました。

続いて、参列者全員で献花を捧げ、犠牲者への冥福を祈り、平和への誓いを述べました。



祈る

山内教頭慰靈祭

本別空襲により旧制本別中学校（現本別高校）で殉職した山内三郎教頭の慰靈祭が7月15日、本別高校同窓会役員や生徒会役員など25人が参列し、同校敷地内の慰靈碑前で執り行われました。慰靈碑にはたくさんの花や果物が供えられ、方川一郎同窓会長や佐藤涉校長などのあいさつの後、参列者全員で黙とうを捧げ、恒久平和を願いました。この慰靈祭は、旧制本別中学校一期生有志が慰靈碑を建立した昭和61年以来、毎年同じ日に同窓会が中心となり実施されています。



願う

7月9日・10日、「本高祭」の会場で、企画展の資料を一部展示する「ミニ移動展」が行われました。公開座談会「本別空襲を伝える会」が7月15日、同校で開催されることに伴い、本高祭の来校者や生徒の皆さんに、本別高校の歴史を知つてもらうため、初めて実施されたものです。教室の一角に設置されたスペースには、71年前に同校（旧制本別中学校）で空襲被害にあった山内教頭の遺影、新旧校舎の写真などが展示されました。



司会者による時代背景の説明に続き、コーディネーターの進行で、語りべ2人が体験談を、10代の代表者3人が意見を発表。戦争を知らない大人世代1人が、詩の朗読を交えて思いを語りました。

語る

平和学習ができる環境は、恵まれていると思います。文化祭の放送劇などを通じて、空襲の悲しみを知りました。平和の大切さを理解して、自分から行動できる大人になりたいです。

理解して行動できる大人に
勇足中学校3年
福田翔子さん

無関心が最大の問題
本別高校2年
富田綾盛さん

体験していなくとも
教育委員・資料館友の会
水谷令子さん

空襲時は中学1年生で、自宅で飛行機の襲来を目撃。その後市街が真っ赤に燃えていました。3日目に登校。自分の机に機銃弾が貫通した跡を見つけて、恐ろしくなりました。

本別空襲の概要
資料館友の会
吉井誠さん

旧制本別中学校での空襲体験
資料館友の会
細岡幸男さん

今自分と町があるのは
本別中学校3年
吉川開さん

戦後71年が経ち、空襲体験者の証言を聞く機会は年々貴重になつていきました。空襲の事実を伝える私たちの活動が、若い人にどう受け止められているか、それを今後どうしていくかをしっかりと考えたいと思います。

主催者を代表して
資料館友の会
高橋利勝会長

公開座談会 本別空襲を伝える会

7月15日、71年前のこの日、空襲被害を受けた場所である本別高校（当時の旧制本別中学校）を会場に、本別空襲の歴史を多くの人に、未来へと語りつぐ公開座談会「本別空襲を伝える会」（歴史民俗資料館友の会主催）が開催されました。



本別高校全校14人、本別中学校3年生54人、勇足中学校全校17人を含む約260人が来場。壇上の6人の発表に耳を傾けました。

聞く

学ぶ



7月に入り、各学校児童生徒の皆さん、資料館企画展を見学し、語りべによる展示案内や昔の食生活体験などを通して、平和への学びを深めました。別町ならではの平和学習が、資料館友の会ボランティアとの協働で進められています。

HELLO 仙美里小学校

校長：高瀬悟史 児童数：30人
教職員：13人 PTA戸数：24戸



6月9日「移動理科教室」
でんじろうさんのようなドキドキワクワクの実験がいっぱいでした。



6月10日「農園活動（低学年）」
おいしい実りの秋が迎えられますように、心をこめて植えました。



6月24日「遠足」
帯広グリーンパークへ。お天気にも恵まれました。水のすべり台がとっても楽しかったです。



学校指像

子どもも教師も輝く 「活力ある学校」



4月8日「入学式」
2人の新1年生が入学。もうすっかりうちとけています。



6月5日「仙美里小学校大運動会」
地域の皆さんと楽しい1日を過ごしました。



6月8日「農園活動（中・高学年）」
JA青年部のみなさんの教えは、さすがプロ！でした。

今年度は児童数30人の「チーム仙美里小学校」。みんなやさしく、親切で、学年関係なく仲のよい学校生活を送っています。保護者や地域のみなさんのあたたかい愛情にはぐくまれ、楽しい1学期を過ごしました！

「医療・介護の安心が、移住者の増加につながる」

平成28年度福祉でまちづくり宣言記念事業（健康長寿のまちづくり会議主催＝井出壬午会長）が6月24日、中央公民館で開催され、長野県諏訪中央病院名誉院長の鎌田寅医師が、約300人の来場者へ、「地域でいのちを支える」をテーマに講演しました。

鎌田医師は、平成18年の福祉でまちづくり宣言時にも講演いたしており、今年度は宣言から10年を迎えるため、今年3月の記念事業で講演した東大阪大学鷹野和美教授とともに来町。福地でまちづくり宣言朗唱の後、鎌田医師は、来場者の大きな拍手に迎えられ、ステージに登壇しました。

今回の講演では、自身の診療風景や患者、家族とのやりとりを紹介するとともに、現在、地方の自治体が町づくりに苦労していると話した上で、「本別町はこの10年で多方面にネットワー

クを作り、地域の人たちが協力し合う町づくりがしっかりと進められている」と評価。万全の医療・介護・福祉施設が並ぶ本別町は、一人ひとりが住み慣れた自宅・地域で安心して暮らすことができる体制が整いつつあります。それぞれの取り組みがさらに強くなっていることで、「これから本別町は間違いない」と強調しました。

最後は、医療・介護の安心・安全が整った町づくりは、移住者の増加や町の活性化などにも



看護・介護職を志す高校生5人も参加

講演には、将来、看護や介護職を希望している本別高校生徒5人も参加。鎌田医師は、未来を担う5人の目をまっすぐに見つめながら語り掛け、生徒たちは熱心に耳を傾けました。



戸籍のまど

お誕生

6月後半から
7月前半の
届出分

鹿島 隆誠くん 隆史さん 6/13 南4丁目
 斎 文太くん 啓一さん 6/18 北8丁目^上
 山田 心暖ちゃん 幸平さん 6/18 押 帯
 和田 尚果ちゃん 智行さん 尚希さん 6/22 南1丁目^上
 花見 陽光ちゃん 賢嗣さん 6/24 緑 町
 佐藤あかりちゃん 彩乃さん 6/27 美里別高東
 吉川 結葵ちゃん 武志さん 6/28 南4丁目^上

おくやみ

立花 フヂさん 95歳 6/16 緑 町
 木下 春市さん 88歳 6/18 北2丁目^上
 前田 敏男さん 90歳 6/21 北3丁目^上
 永山 健三さん 66歳 6/22 錦 町
 篠原スエ子さん 81歳 7/6 柏木町

わたくしたちのまち

前月比

人口 7,488人(±0)
 男 3,681人(-2)
 女 3,807人(+2)
 世帯数 3,737戸(-1)
 [6月末日住民基本台帳]

本のある暮らし 185

子ども
むき

たった1mm、0.01秒の差に人生をかけるアスポートたち。そこには記録をめぐる物語が刻まれています。



記録には感動の
ドリームがある

オリンピックを楽しもう!

JJの一冊で
オリンピック博士に

大人
むき

JOA(日本オリンピック・アカデミー)が、オリンピックを競技だけでなく幅広い視点で解説しています。

お問い合わせ先
本別町図書館
(愛称: ぶっくるーお)
本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112

■発行 本別町 / 〒089-3392 北海道中川郡本別町北2丁目4番地1 ■ホームページ <http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/>
 ■編集 企画振興課広報電算担当 TEL 0156-22-8121 FAX 0156-22-3237 ■印刷 本別印刷株式会社